

製品名: CD19 (リン酸化 Tyr531) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04395**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	人間、ネズミ、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	61kDa

抗原情報

遺伝子名	CD19
別名	CD19; B-lymphocyte antigen CD19; B-lymphocyte surface antigen B4; Differentiation antigen CD19; T-cell surface antigen Leu-12; CD antigen CD19
遺伝子 ID	930.0
SwissProt ID	P15391
免疫原	抗血清は、ヒト CD19 の Tyr531 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 501-550

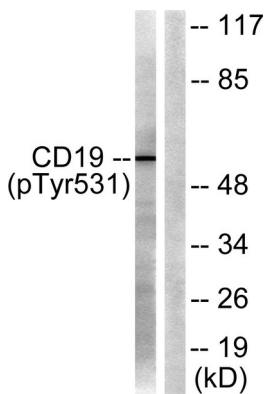
背景

リンパ球は、様々な濃度の異なる抗原に反応して増殖・分化します。B細胞が様々な抗原に対して特異的かつ高感度に反応する能力は、低親和性抗原受容体を利用することで実現されます。この遺伝子は、Bリンパ球の抗原受容体と会合し、抗原受容体依存性刺激の閾値を低下させる細胞表面分子をコードしています。[RefSeq提供、2008年7月],疾患: CD19の欠陥は低ガンマグロブリン血症の原因となる[MIM:107265]。機能: Bリンパ球の抗原受容体と会合し、抗原受容体依存性刺激の閾値を低下させる。、オンライン情報: CD19変異データベース,PTM: DNA損傷(おそらくATMまたはATRによる)により、セリンおよびスレオニンがリン酸化されます。B細胞の活性化に伴いチロシンがリン酸化される。、類似性: 2つのIg様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを含む。、サブユニット: 成熟B細胞膜においてCD21、CD81、CD225と複合体を形成する。VAVと相互作用する。チロシン348および/またはチロシン378がリン酸化されるとGRB2およびSOSと相互作用する。チロシン409がリン酸化されるとPLCG2と相互作用する。、

研究分野

造血細胞系統;B細胞抗原;原発性免疫不全症;

画像データ



血清10% 30 μ lで処理したCOS7細胞のライセートをCD19(リン酸化Tyr531)抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。